

レクサスがEIZOディスプレイを選んだ理由

レクサスは車種ごとにグレードや仕様・装備・カラーリングが、多種多様に用意されています。その中からひとりひとりのオーナーの好みに合った最適なレクサスを提供するために、お客様へのコンサルティングにおいて、専用CGによるデザインシミュレーションが活用されています。そのデザインシミュレーションのディスプレイとしてFlexScan L788LX^{※1}が選ばれました。本冊子はその選定の理由についてレクサスのブランドマネージャー、レクサス星ヶ丘店のマネージャーに取材したものです。

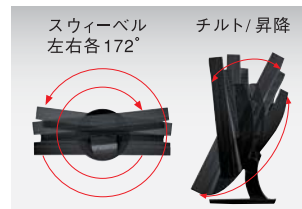
ポイント1 高い色再現性を実現する独自開発のASICと高品位パネル

EIZOディスプレイが選定された最大のポイントは、その色再現性の高さにあります。レクサスの豊富なカラーパターンとその組み合わせを実車に近いクオリティで再現するには、高品位のディスプレイが絶対条件でした。レクサスに採用されたFlexScan L788LX^{※1}をはじめとするEIZOディスプレイは、独自開発された制御ICチップ(ASIC)により低階調部まで鮮明で滑らかな階調表示を実現しています。これに1000:1という高いコントラスト比をもつ液晶パネルの性能が加わって、リアルで奥行きのある映像表示を可能にします。こうした高い色再現性が、深みのあるボディカラーを忠実に再現し、素材やカラーの微妙な差異はもちろんのこと、光の加減や見る角度による色の微妙な変化さえもリアルに表示。カタログの写真よりも実物に近い色を表示したいという高い要求をクリアできました。



ポイント2 対話に便利なArcSwing 2スタンド

レクサスではオーナーの方々との対話を「商談」ではなく「コンサルティング」と位置づけ、お客様との対面でのコミュニケーションを重視しています。そこで、シミュレーションに使用されるFlexScan L788LX^{※1}においても、対面業務に便利な回転機能付きのArcSwing 2スタンドが特別仕様として採用されました。軽いタッチで回転させ表示パネルをお客様に見てもらえるだけでなく、見る人の姿勢に合わせて自由にモニター部の位置や角度を変えられるArcSwing 2スタンドが、お客様とのスムーズな対話を可能にします。



ポイント3 高級感のあるプロダクトデザイン

最高のクオリティをめざしたレクサスは、車本体だけでなく、それが置かれる空間デザインにも徹底したこだわりがあります。背面デザインにまでこだわったFlexScan L788LX^{※1}は、そうした空間にふさわしいディスプレイと言えます。高級感のあるデザインだけでなく、ディスプレイケーブルを筐体と合わせたブラックに変更可能であるといったカスタム仕様への柔軟な対応性も選定の理由のひとつです。



ポイント4 アスペクト比固定モード搭載

FlexScan L788LX^{※1}には、拡大画像も快適に表示するアスペクト比固定モードが搭載されています。推奨最大解像度未満の各解像度をノーマル(1:1)、拡大(アスペクト比固定)、フルスクリーン(全画面)の3つのモードから選択することができます。拡大モードでは縦横比を維持したまま拡大できるので、車体のイメージを損なうことなく正しい表示が可能です。

*イメージ



■ノーマル(1:1) ■拡大(アスペクト比固定) ■フルスクリーン(全画面)

※1「FlexScan L788LX」は「FlexScan L788」にArcSwing 2スタンドを取り付けた特別仕様モデルであり、現在は販売していない。

LEXUS with EIZO

レクサスがEIZOディスプレイを選んだ理由

レクサス様





■2階のスペースでオーナーの来訪を待つレクサス各車。大きなガラスウィンドウからの自然光が、表情豊かなレクサス各車のデザインや色合いを浮かび上がらせている。

紳士・淑女をもてなす空間

ガラスと御影石を巧みに配した建物内に入れば、そこには明るく、それでいてシックな空間が広がっていた。

外壁とは一転し、室内の床は白い大理石。大きなショーウィンドウからの自然光と、天井の白色照明がバランスよく融合し、主役であるクルマ達のラインを美しく照らし出す。あくまで控えめでさりげないが、そこには訪れる紳士・淑女をもてなすための緻密な計算と配慮が満ちている。

これは「レクサス星が丘店」だけの演出ではない。日本には全部で160店舗のレクサスディーラーがあるが、それらすべてに共通した空間デザインだ。東京で別のレクサスディーラーに足を運んだこともある筆者は、レクサス星が丘店のドアをくぐった時、めまいにも似た既視感に襲われた。統一デザイン。それが全国規模で徹底されているということだ。

これまでの日本車のディーラーはもとより、高級輸入車のディーラーだって、ここまで徹底した空間作りは行っ

てこなかっただろう。

室内の雰囲気は節度ある高級感で統一されており、ひとつとして調和を乱すものはない。クルマを取り巻く空間すべてがまとまっているので、取って付けたような安っぽさがないのだ。

さらに店内のエスカレーターを上がり、2階に足を運べば、白を基調にしたスペースでくつろぐことができる。奥にはレクサス各車が美しく佇み、エスプレッソマシンとレクサス星が丘店オリジナルの設備である酸素バーもある。



レクサスを買うということは、高級車を1台、自宅のガレージに納めることではない。レクサスと暮らすライフスタイルを手に入れることだ——。富裕層に新たなライフスタイルを提案することで、大成功を収めたレクサス。そのレクサスディーラーの国内店舗には、EIZOの液晶ディスプレイが約1,400台導入されている。レクサスがEIZOを選んだ理由とは何か。

■「レクサス星が丘店」の外観と店内。自然光の採光を考慮した大きなガラスウィンドウが外観上のデザインアクセントにもなっている。



■レクサス星が丘店オリジナル設備の酸素バー



■ レクサスを取り巻く空間デザインとみごとに調和したコンサルティングデスク。ここでオーナーとスタッフは対話を重ねながら、そのオーナーにとっての最適なレクサスを創りあげていく。

ライフスタイルとしてのレクサス、そしてデザイン

レクサスを買うということは、高級車を1台、自宅のガレージに納めることではない。レクサスと暮らすライフスタイルを手にいれることだ——。1989年、アメリカで設立されたレクサスは、北米の富裕層に新たなライフスタイルを築き上げることで大成功を収めた。

2005年、レクサスは最高の車、最高の販売・サービスを提供するというコンセプトで国内市場に打ってでた。レクサスIS、GS、SC、そしてLSとラインアップされた高級車はもちろん、それらと接するディーラーにも最高のクオリティが注ぎ込まれた。特に重視されたのが、クルマとの調和、そして全体の統一感である。

レクサス各車のデザインは、「L-finesse（先鋭—精妙の美）」と呼ばれるテーマで統一されている。これは特定の形状やライン、シンボルを差すものではなく、レクサス全体として目指すべき方向性、哲学に近いものだ。レクサス各車を間近で見ると確かに感じる、静と動を巧みに織り上げた精妙の美は、威圧的な存在感や躍動感ばかりが強調された高級ドイツ車のわかりやすさとは一線を画したものだ。

しかし、だからこそディーラーの空間デザインは重要になる。クルマの持つL-finesseを感じ取るには、レクサスを取り巻く空間に調和を乱す要素がひとつとしてあってはならないからだ。そこでレクサスディーラーの調度品の選定は、極めて厳しいチェックの下で行われたという。

審美の対象になったのは、机や椅子ばかりではない。卓上の電話機、エスプレッソマシンといった機材までもが「空間デザイン上、好ましいか否か」が検討された。それら設備の中でも、空間デザインとの調和で選定が難しかったのが、コンサルティングデスクに置かれた液晶ディスプレイである。

調度と調和した EIZO液晶ディスプレイのデザイン

レクサスは車種ごとのグレードや仕様・装備、そしてカラーリングが多種多様で、それぞれのオーナーにとって最適なレクサスになるようにスタッフがアドバイスする。だからレクサスでは、オーナーとの対話を「商談」ではなく、「コンサルティング」と位置づけている。

このコンサルティングをする場所が、コンサルティングデスクだ。ここではカタログや装備表だけでなく、EIZOブランドの19インチディスプレイ FlexScan L788LX^{*1}で専用CGシミュレーションを見ながら、好みのレクサスを探ることができる。このシミュレーション

■それぞれのオーナーにとって最適なレクサスになるようにアドバイスする場所がコンサルティングデスクだ。机、椅子、卓上の電話機、さらには液晶ディスプレイまでが、審美の対象として厳しくチェックされた。

映像により、実写ではわかりにくい、カラーやホイール変更による全体イメージの変化をリアルタイムに確認できる。このシステムはレクサスのコンサルティングにとって、重要な位置を占めている。

しかし、冒頭で述べたとおり、レクサスディーラーの空間デザインは緻密な計算と調和に基づいている。ディスプレイの選定についても、色やデザインがこの店舗の空間に相応しいか否かが検討された。

「店舗空間デザインは黒を基調としていますから、液晶ディスプレイも『黒色』が前提になります。しかし、シックな黒のディスプレイは製造しているメーカーが限られ、それだけでも選定が難しくなりました。

さらにレクサス店舗で導入するには、ディスプレイケーブルまで黒で統一する、各種ロゴシールをすべて取り除くと言った要求にも応えていただく必要があった。EIZOにはこれらレクサスのニーズに対して、柔軟にカスタム対応を取っていただきました」（レクサス国内営業部ブランドマネージャーの中村聡氏）

EIZOのデザインが評価されたポイントは、「黒かった」だけではない。EIZOのディスプレイは「モニターを見つめる人を見つめつづける」というコンセプトのもと、機能的でありながら美



*1「FlexScan L788LX」は「FlexScan L788」にArcSwing 2スタンドを取り付けた特別仕様モデルであり、現在は販売していない。



に大量導入された背景には、製品デザインの優秀さだけでなく、その画質・性能が優れていたという理由がある。後編では、レクサスが評価したEIZOディスプレイの色再現能力について紹介していく。

専用CGソフトで「見え方の違い」をシミュレーション

しいデザインをその筐体に与えている。

「コンサルティングデスクではお客様と対面でお話しますから、（ディスプレイの）前面だけでなく、側面から背面まであらゆる部分でデザイン上の手抜きがあってはならない。レクサスは『おもてなし』を大切にしており、その接点である店舗に調和できるだけのデザインクオリティがあるかは、非常に重要です。EIZOのディスプレイは画質が良いことはもちろんですが、デザインの良さや柔軟にカスタム対応していただいたことが選定のポイントになりました」（中村氏）

カスタム対応の点では、コンサルティングデスクでの運用にあわせてL788LX^{*1}を対面業務が可能な回転機能付きのArcSwing 2スタンドに仕様変更して納入するなど、EIZOはレクサスのニーズに真摯に答えていった。このArcSwing 2スタンドはディスプレイの高さを変えても目と画面との距離がほとんど変わらず、手で本を読むように自然な姿勢でディスプレイを見つめられるように考え出された機構だ。

レクサスクオリティを満たす高品位な製品デザインと使いやすさへのこだわり、さらに柔軟なカスタム対応。これによってEIZOは、レクサスのコンサルティング用ディスプレイとして採用されたのである。

むしろ、EIZOのディスプレイがレクサス

レクサスの「カラー」へのこだわりは尋常ではない。エクステリアだけで22色をラインアップし、すべて6コートの複層塗装。カラーごとにコートパターンを変化させ、レクサスSCのコスモシルバーでは8コートの複層化を果たしている。また配色パターンも、従来のクルマが利用していたカラー領域を超えて、深みや透明度、反射率まで計算し尽くしているという。ショールームで実車を前にすると、広告の写真やTV-CFとはまったく違う表情豊かな色合いに驚くはずだ。

例えば、ポピュラーな色であるシルバーにしても、レクサスにはプレミアムシルバー、シルバーマイカメタリック、コスモシルバーを中核に、グレーやブルー、レッドなど色味が入ったシルバー系のメタリック色が存在する。それらは光の加減、見る角度で「はっきりと違う」ものだ。



■2階に展示されたレクサス各車とレクサスの色見本。色見本はエッジと曲面で構成された立体造形物に塗装しているため実車に近い色の深みや透明感、光沢・反射を再現できる。とはいえ、(部分的な)色見本ではクルマの全体像をイメージしづらいといった難題もある。

だが、その違いを紙のカタログだけで見比べるのは難しい。そこでお客様へのコンサルティングで活用されているのが、専用CGソフトと高画質液晶ディスプレイを活用したデザインシミュレーションである。

「レクサスを購入されるお客様はクルマの全体のイメージに、こだわりを見いだす方が多いですね。ですから、(部分的な)色見本でさまざまな配色のご紹介をするだけでなく、ディスプレイ上でクルマ全体像を見ていただき、その場でカラーパターンを変えて見ていただくことは重要になります」(レクサス星が丘店マネージャーの吉田哲也氏)

CGシミュレーションの画面ではさまざまなカラーをあわせることが可能であり、オーナーはそれぞれのカラーパターンごとに「見え方の違い」を比べることができる。また視点位置がスムーズに変えられるので、角度によるそれぞれの色の表情の違いも見比べられる。これは紙のカタログでは不可能なことである。

「レクサスを検討される方は『私にあう色』を求めるケースが多いですね。色へのこだわりは強いと感じています。例えばシルバー系でも少し色味は違ったカラーを選ばれたり、他社(のクルマ)では設定のないめずらしい色を購入される方もいます」(吉田氏)だが、それだけ「色へのこだわり」が強いということは、CGシミュレーション上での色再現性に求められるハードルは高くなる。EIZOの19インチディスプレイFlexScan L788LX*1がレクサスに選ばれた最大の理由が、まさにこの色再現性の高さにある。

同機に搭載されている自社開発の制御ICチップは、PCから出力された1677万色の色データをいったん10億6433万色まで拡張し、その中から最適な1677万色を選び直して画面に表示できる。また、コントラスト比1000:1の液晶パネルによりリアルで奥行きのある映像を表現。レクサスの求める色へのこだわりに応えた。

「レクサスの豊富なカラーパターンを、可能なかぎり実車に近いクオリティで



■専用CGソフトを駆使したカラーパターン変更によるデザインシミュレーション風景。紙のカタログや部分的な色見本では不可能なレクサスの全体像や角度による表情の違いをシミュレーションできる。

再現できること。特に深みのあるクルマの色がどれだけ出せるかがポイントで、これが最重要の選定要件でした。

EIZOの製品は(他社製ディスプレイも含めた)比較評価の結果、トータルの性能で最も優れており、導入を決める決定打になりました」(中村氏)

確かにL788LX*1に映し出されるレクサス各車は、豊富なカラーによる表情の違いをしっかりと描き出しており、「同じエクステリアでも、色が変わるところも見え方が変わるものか」と感心させられる。デザインやカラーへのこだわりの強いレクサスオーナーも、これなら納得できるだろう。

インテリアやホイールの質感も再現できる高い色再現性

さらにCGシミュレーションでは、インテリアパターンの変更やホイールの変更も画面上で再現できる。こちら

もレクサスオーナーに好評な機能であると、吉田氏は話す。

「レクサスのインテリアは、例えばシートでは素材やカラーの違いで15パターンもの選択が可能な車種もあります。シミュレーションでは、これをエクステリアの色と組み合わせで見られますから、配色のマッチングが試せるのです。またインテリアの内容を変えた時に、車内の雰囲気がどう変わるのかも見ていただけます。一方、ホイールはオプションとしてさまざまなデザインのものを用意されています。レクサスオーナーの特徴として、ホイールのデザインは安定性のあるものを選ぶ方が多いですね。さりげないこだわりを大事にされている印象です。このホイール変更でも、シミュレーション画面でエクステリアのカラーとの組み合わせを試せますから、(購入前に)装着イメージがわかります」(吉田氏)

インテリアやホイール変更によるデザインの変化を見比べるには、液晶ディスプレイの色再現性はもとより、解像度や描画力の高さも重要になる。この balan

スも、L788LX*1は優れていたという。

EIZO液晶ディスプレイが実現した「スムーズなコーディネート」

「我々はお客様との対話を重視し、その中でオーナーとなる方にとって最良のレクサスを作り上げていきます。デザインはまさにコーディネート。お客様のこだわりを、レクサスのエクステリアやインテリアに再現していくことになります。液晶ディスプレイ(L788LX*1)の性能の高さが、このコーディネート時間の短縮に役立っています」(吉田氏)

L788LX*1を活用したシミュレーションはレクサスオーナーにも好評であり、将来の機能向上へのニーズも高いという。

「お客様の声には『自宅のガレージに(レクサスを)納めたイメージを画面上で見たい』といったものがあります。将来的には、お客様にデジタルカメラで自宅ガレージを撮影してきていただくと、その画像とレクサスの映像を合成して表示できるような機能が追加されるといいですね。



■「コンサルティング」や「コーディネート」の重要性を語るレクサス星が丘店マネージャー 吉田哲也氏。

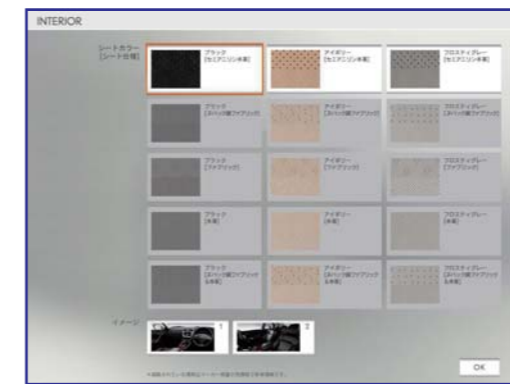
また、(シミュレーションした)レクサスが走っているイメージが見たいという声もあります。液晶ディスプレイの性能が高いため、今後は映像対応などにも期待したいところです」(吉田氏)

クルマと、クルマを取り巻くライフスタイルすべてにおけるクオリティを重視するレクサス。EIZOの液晶ディスプレイは、色再現性を軸とした性能が高く、さらに筐体のデザインが高品位であることから、レクサスの審査をクリアした。また、EIZOが特許を持つ自動調光機能により、使用年数が経っても安定した表示状態を保ち続けられることや、購入から5年間*2は無償で修理が受けられることなど、耐久性や信頼性の面でも評価されたという。

液晶ディスプレイはサイズと価格で選ばれるケースが増えているが、ユーザーの接触時間の長さを考えれば、「品質」も重要なファクターであるはずだ。その品質基準として、「レクサスが選んだ」EIZOの液晶ディスプレイは、ひとつの答えと言えるかもしれない。



■エクステリアのCGシミュレーションの一例。試したいカラーパターンを選択して「OK」ボタンを押すと(上)、そのカラーのレクサスを実車に近いクオリティで確認できる(下)。クルマの向きも、「VIEW」の4つのボタンで4方向に切り替えられる。



■インテリアのCGシミュレーションの一例。そのシリーズで選べるインテリアの素材/カラーがアクティブになるので(上)、試したい素材/カラーを選べるとインテリアが切り替わる(下)。視点は、シート中心とインパネ中心に変更可能だ。

*1 「FlexScan L788LX」は「FlexScan L788」にArcSwing 2スタンドを取り付けた特別仕様モデルであり、現在は販売していない。

*2 使用時間30,000時間以内。LCDパネル及びバックライトは3年間保証。